

## 柔道用畳 南相馬のスポーツ少年団へ

筑波大学 嵯峨寿

「相馬の野馬追い」で有名な南相馬市も、昨年の東日本大震災で甚大な被害を受けた。現在は福島第一原子力発電所の事故の影響で、約3万人が避難生活を余儀なくされている。

南相馬市の《原町柔道スポーツ少年団》の活動拠点である栄町柔剣道場は、災害発生直後より遺体安置所に使われ、その後は遺留品の保管場所とされてきたが、今年4月からは何とか道場を再開したいらしい。

再開に当たり、少年団関係者は畳の交換を望んできたが予算の目途がなかなか立たず、福島県体育協会のポータルサイトに支援物資として登録されていた。

私も筑波大学では、武道館の柔道場の畳を入れ替えることになり、これまで使用していた350枚の畳はほぼ廃棄処分する予定であった。しかし、中古でもきっと必要としているところがあるだろうとようやく探し当てたのが原町柔道スポーツ少年団だった。早速、代表の大亀清壽さんに連絡をとったところ、道場再開にとって「まさしく天佑」と喜んで下さり、畳150枚を送ることが決まった。次は、運送費を捻出しなくてはならなかった。

国立大学がその財産を廃棄する際、費用はもちろん大学が負担するのだが、今回のように譲渡する場合には受益者が一切の経費を持つきまりになっているらしい。しかし、そうだからといって、被災地の経済状況の厳しさや市の予算配分の優先度を考えてみても、また、大体連が行なった「復興支援検討会」（平成23年6月29～30日）において目の当たりにした被災地の光景を思い起こしてみても、先方に運送費を出せとは言えなかった。



手際よく運び出され、南相馬市《原町柔道スポーツ少年団》へ送られる柔道畳

大体連が震災後に立ち上げた復興支援プログラムに「支援物資送付」という補助金支給制度があることに気づき、申請したところ、10日足らずで交付決定の報せがあった。

一畳あたり約12kgの畳を、武道館2階の柔道場から1階まで下ろし、トラックに積みこむ。南相馬では荷下ろしの作業がある。気が遠くなりそうなこれら力仕事と、大型トラックによる運送料や高速料金などを合わせた見積りを運送会社6社から取ったものの、いずれも、大体連からの助成限度額（10万円）には収まり切らなかった。

このため、南相馬での荷下ろし作業は、少年団の父兄ら現地の関係者で引き受けてもらうことにし、他方、最安の見積もりだった、ペリカン便でお馴染みの日本通運（茨城支店）には被災地への支援物資である旨を伝えたところ、助成金額内で請け負っていただくことができた。

いよいよ畳を輸送する3月17日。降りやむ気配のない雨天の下、午後1時作業開始。アルバイトらしき若者たちがきびきびと畳を運び出しては手際よくトラックに積み込んでいく。結局、畳154枚を積んだ大型トラック（10t車）を3時に見送ることが出来た。

原発に近いいわき市のスパリゾート・ハワイアンズは2月8日に営業を再開したが、トラックの運転手さんによれば、常磐高速と国道6号線（水戸街道）の一部区間が警戒区域にかかっているため、南相馬へは内陸の迂回路を通って行くとのこと。少年団の手に渡るのは翌日の午前9時頃になるそうだ。

一夜明けた翌日、畳154枚が無事届いたとの報せがあった。  
次は、オリンピック後の8月、柔道教室に出向くことができると考えている。

## 1. 支援物資送付先

団体名 福島県南相馬市 原町柔道スポーツ少年団  
所在地 福島県南相馬市原町区南町4-13  
代表者 大亀清壽さん

## 2. 支援物資名と数量

柔道用畳154枚



2時間かけ10tトラックに積み込み完了